



きいんぐみだより

2025年度 3月号 社会福祉法人 尚徳福祉会 保育園川崎ベアーズ

あっという間に1年が経ちました。先月の懇談会は、保護者の皆さまと子どもたちの成長を共有させていただき、とても和やかな会になりました。ご参加ありがとうございました。少しずつ進級・新年度の雰囲気を感じ取っている子どもたちです。「もうすぐぞう組さんになるから」という言葉と共に新しいことにチャレンジしようとしています。そんな子どもたちを見守り、励ましながら大切に過ごしていきます。改めまして1年間ありがとうございました。



ひなまつり

ひな祭りでは初の試みとして、自分で輪郭や髪をハサミで切り貼りをして作りました。工程を伝えると「難しそう!」「できるかな?」と言っていた子どもたちですが、やる気満々で取り組みました。輪郭は切り取り線を用意すると、その線を目印に集中して切っていました。髪の毛は「お雛様ってどんな髪の毛だっけ?」と思い出しながら思い思いの髪型にしていました。最後に顔を描き入れ完成すると「女の子だからかわいくしてあげたんだよ」「ほっぺも描いてみたよ」とポイントを教え合っていました。

コンビカー

ホールでコンビカーに乗って遊ぶことを楽しんでいます。段ボール箱を置いて道路や家、ガソリンスタンドなどを作るとホールが小さな街に変身!みんなでどんな街にするか相談しながら取り組んでいます。大人気なコンビカーですが、どの子も嫌がらず順番待ちをしている子に譲ってあげようとしたり、ぱんだ組の小さい子に対して「まだ乗ってないよね?」と自分から話しかけたりする姿に成長を感じました。今まで遊んでいた玩具でも、子どもたちの成長やさまざまな姿が見られるようになりました。

雪のある日

2月のある日、雪が降った翌日の保育園は「園庭に雪が残っているから早く園庭行きたいな~」「雪だるま作れるかな?」と少し浮足立っていました。さっそく園庭に出て触ると「つめた~い!」と大喜び。バケツに集めてかき氷屋さんや小さな雪だるま作りをしました。遊んでいるうちに誰かがタイヤの中に氷があることに気が付くと、氷集めも始まりました。室内に入る時間になると、「溶けないように隠しておこう」と日陰に目立たないように置く子どもたちでした。

お手伝い

ぱんだ組の布団掛けを手伝いにいきました。「一緒にやってあげようか?」とやさしく声をかけるきりん組さん。次々にぱんだ組とのペアができ、布団の掛け方を教えてあげていました。中には自分でやってみたくて教えてくれるぱんだ組の子もいたのですが、その気持ちを尊重して「頑張ってるね」と応援してあげていました。相手の気持ちを汲み取ろうとする気持ちが育っています。身体だけでなく、心も成長している子どもたちです。ぞう組さんになってもやさしい気持ちで年下のお友だちに接してほしいと思います。

